

精神科治療学編集委員会

(五十音順)

編集委員

天野直二	新井平伊	加藤敏	兼本浩祐	古茶大樹
鈴木國文	仙波純一	中安信夫	堀川直史	本田秀夫
松本俊彦	宮岡等			(統計担当)立森久照

編集顧問

市橋秀夫	笠原洋勇	上島国利	倉知正佳	栗田広
小島卓也	融道男	中井久夫	永田俊彦	樋口輝彦
皆川邦直	村上靖彦	山口直彦	吉松和哉	

編集後記

難治であるなどの理由による依頼、あるいは現在の治療が適切かと自らセカンドオピニオンを求めて来院される患者さんの診察を担当する機会が多いが、それまでの診断や治療に疑問を感じる例が増えたような気がする。多くは症状が改善しないという理由で薬剤が追加され、理解し難い大量処方や多剤併用になっている場合であり、新薬が発売されるたびに「こんどの薬は効くかもしれない」という説明の下、時には添付文書上の用法を無視してまで薬剤が追加されていることもある。精神科を専門としない医師は向精神薬の使用にためらいがあるせいか、このような問題は前医がプライマリーケア医ではなく精神科医である場合に多い。どの処方が適切かについては十分な議論が必要であるとしても、精神科医の臨床能力に幅があることは認めざるをえない。専門医制度などを通して、すべての精神科医の実力を一定水準以上に保つ努力は不可欠であるが、一方では患者さんによい医師を選んでほしいと言いたくなる。

様々な議論を呼んでいる新医師臨床研修制度が

始まってから大学関係以外に多くの医療機関が研修施設として加わった。精神科でも大学以外の施設で後期研修を受ける医師が増えた。これだけ研修の場が広がり自分の研修先を自分で決める医師が増えてくると、医師の実力差はこれまで以上に広がる。研修施設は少しでも優れた精神科医を育てるように努力するし、その目標は「うちから巣立った精神科医はきちんとした臨床ができる」と言えることである。そうなれば、現在臨床現場で口に出しきれないでいる「医師の受けた研修は様々です。精神科医の実力にもばらつきがありますから、患者さん自身が医師を選ぶことも大切ですよ」という言葉を言いやすくなる。それを待ち望むのも悲しいが、求めざるをえない方向だとも思う。

さて今回は政権交代によって公的な支援がどう変わるかが注目されている発達障害者支援に関する特集である。時代の流れに鋭敏に対応するためにも本特集が役立つことを願う。(宮岡等)

精神科治療学

Jpn. J. Psychiatr. Treat.

第24巻 第10号(2009年10月19日発行)

定価: 3,024円(本体2,880円)

年間購読料: 定価42,483円(税込み, 増刊号含む)

発行者—石澤雄司

発行所—星和書店

〒168-0074

東京都杉並区上高井戸1-2-5

PHONE 03-3329-0031(営業部)/0033(編集部)

F A X 03-5374-7186(営業部)/7185(編集部)

U R L <http://www.seiwa-pb.co.jp>